



第147号
編集発行
愛知学院大学
事務局 企画広報課
☎ 470-0195
愛知県日進市岩崎町
阿良池12
電話 <0561>73-1111代

国立大学法人評価委員会 専門委員に小出学長任命される

独立法人化した国立大学の法人評価を行う評価委員会専門委員に学長は文科大臣より任命された。大学運営・教育研究・財務内容等を評価し、その結果を次期運営費交付金の算定に反映する重要な任務である。学長は東大・東工大等関東地区十七大学の担当となり、その責任は極めて大きい。

六年制薬学部と短大部 歯科衛生学科の開設！

学 院 長 小 出 忠 孝

式辞(要旨)

本日学院創立一二九周年・大学開学五十二周年記念式を迎える事が出来、まことに喜びに耐えられません。今日迄の九十九年間、歴代の関係各位のご努力とご支援に、深甚なる敬意と謝意を捧げるものです。

学院発展の基礎

本日の創立記念日にあたり第一に銘記すべきことは、本学院が宗祖道元禪師の教えを建学の精神とし、明治九年創設の曹洞宗設立の私学で、中部で最も古い歴史と、伝統を持つ学園であることです。

次に戦後の学制改革に際し、本学は時代の先端を走り、昭和五二年に短大を、二八年に宗祖道元禪師七〇〇回大遠忌の報恩事業として大学を創設、商学部を開設したことです。戦後日本の教育界発展のトッポをきった、小出有三初代学

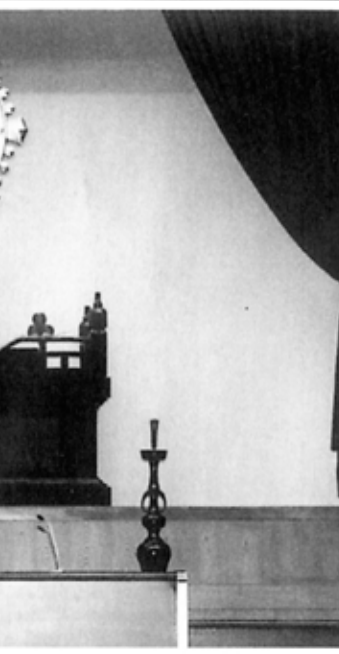
院長の先見の明と実行力に心から敬意を表すものです。第三に昭和三六年戦後わが国最初の六年制歯学部を設置した事です。中部最初の歯学部設置により本学のステータスは飛躍的に向上し財政的基盤も確立され、大愛知学院発展の原動力となったのです。第四に昭和五一年に学院創立百周年を記念し、日進キャンパスを開設した事です。緑豊かな五〇万㎡の広大なキャンパスの設立が、本学の飛躍的発展の基礎となったのです。

この様に大学の基盤が整った当時、わが国経済は高度成長期にあり、企業は高等教育を受けた大学生を必要としていました。この社会の要請に応え本学は学部の定員を増加し、多くの卒業生を社会に送り出しました。これらの卒業生が各企業の中堅リーダーとなり、わが国の高度成長を支えてきたのであり、本学として大いに自負しているのです。

一方近年の情報化、国際化、高齢化等、社会の急速な変化は、新たな知識や専門的能力を有する人材を求めています。この時代の需要に対応し本学では、産業情報学科、国際経営学科、現代社会法学科を次々増設、次いで現代社会に起因する心の悩みに対処する臨床心理士を養成する心身科学部心理学科を、また高齢社会のニーズに応え、健康長寿の指導士を養成する健康科学部を増設しました。

さらに今春には医薬分業やドラッグストアの伸展による薬剤師需要の急増に対応し、薬学部も新設しました。また法科大学院も新設した結果、現在八学部十五学科、大学院七研究科、短大二学科に教職員一千名、学生一万二千名、同窓生十万人を有する中部最大級の規模と、充実した内容を誇る私立の総合大学へと飛躍的に発展してきました。

医療系学科の充実
今春本学では四年制薬学部を新設し、定員の十九倍の志



卒業や課外活動の環境充実に努めています。さらに今秋より第一食堂を新築し、学生生活の充実を計っていきます。

現在わが国は大学進学率の上昇により、学生の学力と共に学習意欲も多様化しています。この様な学生の質の変化に如何に対応するかが、大学の責務であります。また十八才人口の減少で、二年後には大学全入時代という私学に厳しい時代がきます。この様な時には全教職員が意識を改革し、教育内容・方法を改善し、学生のためになる魅力ある教育を行うことが最も肝要です。本学では教員の授業自己評価、学生の授業評価等を実施し、授業の改善に努めると共に、FD委員会による「分り易い授業のあり方」について努力中です。本学発展のため全教職員の協力と努力を特に要望するものです。

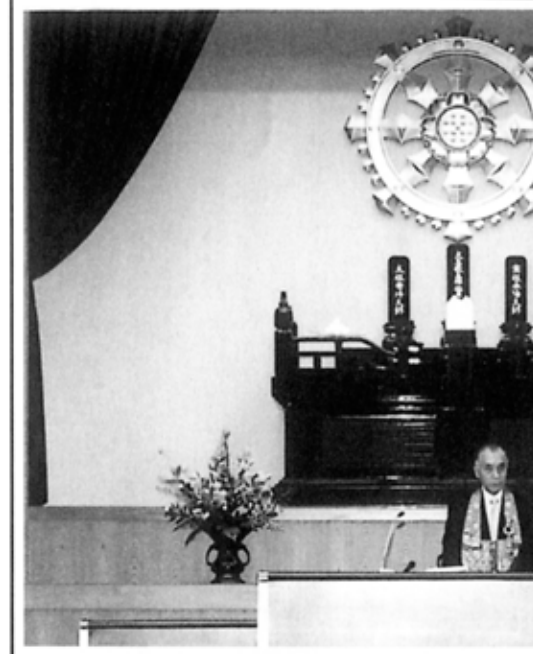
以上本学では時代の変化に対応し、絶えず改革の努力を続けていますが、一方私学として決して「変えてはならないもの」がある事を忘れてはなりません。それは創立以来堅持してきた建学の精神「行学一体・報恩感謝」です。この建学の精神を体した学生を、一人でも多く社会に送り出すことが、私学としての本学の特色であり、使命でもあります。本日、学院創立一二九周年・大学開学五十二周年の輝かしい歴史をふり振り返り、学院の今日ある姿を理解した時「学院大学の教職員・学生である」と共に大きな誇りを持つて頂きたい。そして本学が二一世紀においてさらに大きく飛躍するため、各人が夫々の立場で努力される事を要望するものです。

愛知学院創立一二九周年記念式典が、十月十五日午前十時から日進キャンパス百周年記念講堂で挙行政され、第一部の式典では小出学院長の式辞に続き、勤続表彰、クラブ表彰などが行われた。

続いて第二部の物故者追悼会では、小出学院長が導師をつとめて厳かに営まれた。慰霊の対象は平成十五年十月一日から平成十六年九月三十日まで間に逝去の届出があった本学関係物故者六十四霊。ご遺族、教職員、大学後援会・同窓会役員、学生らが参列して物故者の冥福をお祈りした。

また、平成十七年度永年勤続表彰者は次の皆さん。
理事・財政部長 押田 清道
法学部長 黒田 喜重
財政部会計課 伊藤 照夫
図書館情報センター事務職員 鈴木千鶴子
三十五年勤続者
理事・大学事務局局長 内田 友宏
心身科学部長 酒井 亮爾
教授 早川 昌範
教授 小池 秀夫
教授 中垣 晴男
教授 中垣 晴男
教授 福井 寿男
教授 向井 正視
教授 岡野 恒一
教授 伊藤 法瑞
教授 大竹 和美
教授 坂倉 正仁
教授 井口 喜之
教授 瀬川 良彦

愛知学院創立一二九周年記念式典を挙行政



愛知学院創立一二九周年記念式典が、十月十五日午前十時から日進キャンパス百周年記念講堂で挙行政され、第一部の式典では小出学院長の式辞に続き、勤続表彰、クラブ表彰などが行われた。

続いて第二部の物故者追悼会では、小出学院長が導師をつとめて厳かに営まれた。慰霊の対象は平成十五年十月一日から平成十六年九月三十日まで間に逝去の届出があった本学関係物故者六十四霊。ご遺族、教職員、大学後援会・同窓会役員、学生らが参列して物故者の冥福をお祈りした。

また、平成十七年度永年勤続表彰者は次の皆さん。
理事・財政部長 押田 清道
法学部長 黒田 喜重
財政部会計課 伊藤 照夫
図書館情報センター事務職員 鈴木千鶴子
三十五年勤続者
理事・大学事務局局長 内田 友宏
心身科学部長 酒井 亮爾
教授 早川 昌範
教授 小池 秀夫
教授 中垣 晴男
教授 中垣 晴男
教授 福井 寿男
教授 向井 正視
教授 岡野 恒一
教授 伊藤 法瑞
教授 大竹 和美
教授 坂倉 正仁
教授 井口 喜之
教授 瀬川 良彦

愛知学院創立一二九周年記念式典が、十月十五日午前十時から日進キャンパス百周年記念講堂で挙行政され、第一部の式典では小出学院長の式辞に続き、勤続表彰、クラブ表彰などが行われた。

続いて第二部の物故者追悼会では、小出学院長が導師をつとめて厳かに営まれた。慰霊の対象は平成十五年十月一日から平成十六年九月三十日まで間に逝去の届出があった本学関係物故者六十四霊。ご遺族、教職員、大学後援会・同窓会役員、学生らが参列して物故者の冥福をお祈りした。

また、平成十七年度永年勤続表彰者は次の皆さん。
理事・財政部長 押田 清道
法学部長 黒田 喜重
財政部会計課 伊藤 照夫
図書館情報センター事務職員 鈴木千鶴子
三十五年勤続者
理事・大学事務局局長 内田 友宏
心身科学部長 酒井 亮爾
教授 早川 昌範
教授 小池 秀夫
教授 中垣 晴男
教授 中垣 晴男
教授 福井 寿男
教授 向井 正視
教授 岡野 恒一
教授 伊藤 法瑞
教授 大竹 和美
教授 坂倉 正仁
教授 井口 喜之
教授 瀬川 良彦

愛知学院創立一二九周年記念式典を挙行政

日野原重明氏講演会開催

「愛・地球博パトナーシップ事業」

聖路加国際病院名誉院長で「生き方上手」をはじめとする著書、講演、テレビなどで活躍する日野原重明氏の講演会(中日新聞社主催)が、9月10日に愛・地球博パトナーシップ事業の一環として、日進キャンパス百周年記念講堂にて開催された。テーマは「地球上でよく生きるために必要な愛と想(ゆる)しと和」。

日野原氏は、人がより良く生き、より良く老いるためには、見返りを求めない「無償の愛」。他を受け入れる慈悲の心である「恕」。そして、すべての生き物が平和に共生する「和」。この3つのこと



が何よりも大切であると語った。93歳とは思えない熱のこもった講演に、詰めかけた2千人を超える聴衆は熱心に耳を傾けた。

第1グラウンド(陸上競技場)リニューアル

日進キャンパス第1グラウンドのリニューアル工事が完了し、9月20日に竣工式が執り行われた。小出学長、水谷大学後援会長、黒神学生部長のテープカットと挨拶のあと、集まった大勢の教職員や運動部の部員らが、芝やトラックを踏みしめグラウンドの素晴らしさを実感した。

リニューアルしたグラウンドには、外周部分に全天候舗装された100メートル走路を6コース、400メートル走路を5コース、そして走り幅跳び・砲丸投げといった陸上競技施設が整備されている。また、10,000mを超えるインフィールド部分には、近年Jリーグなどの練習グラ



愛知学院大学補元キャンパスに、薬学部棟が9月末に竣工した。

8階建ての薬学部棟は、フロアの中央にある吹き抜けが1階から最上階まで繋がっており、自然光が降り注ぐ、明るく開放感のある空間となっている。

1階のエントランスを抜けると、学生ホール兼軽食堂が広がり、また薬学部長室や薬学部事務室などが並ぶ。2階は講義室フロア、3階は歯科衛生、4階は講座教室実習室フロア、5階は実習室及び講座研究室フロア、6・7階は講座研究室フロア、8階は講座研究室や動物実験室などを備えている。

薬学部は平成17年度から4年制から6年制へ移行される。特に実務実習に至っては、病

薬学部棟、2号館増築棟竣工

院や保険薬局での臨床実習が現行の4週から21週に大幅に延長される。

これに合わせるべく、学内の実習に力を入れていくための薬剤実習センターを整備。最新の機器やコンピュータを導入し、病院実習だけでなく、社会に出てからすぐに役立つ技能を育てる。時代が求める薬学教育の実践の場として相応しい薬学部棟の完成といえる。

また、日進キャンパスにおいては、昨年の夏休みから工事が行われていた2号館増築棟が9月末に竣工し、3号館にあった教養部の研究室が移転した。

地上5階、地下1階の2号館増築棟には、68研究室の他、講義教室やゼミ室、面談室、資料室等が備えられている。

秋季学位記授与式

平成17年度秋季学位記授与式が9月29日、日進キャンパス大会議室で行われた。対象となったのは学部生73名、大学院博士課程前期修了者7名。小出忠孝学長の式辞、加藤教務部長他の祝辞に引き続き、学部長、研究科長から学位記が手渡された。



日本語サミットの協力校をお引受けして

国際交流センター所長 草間秀三郎

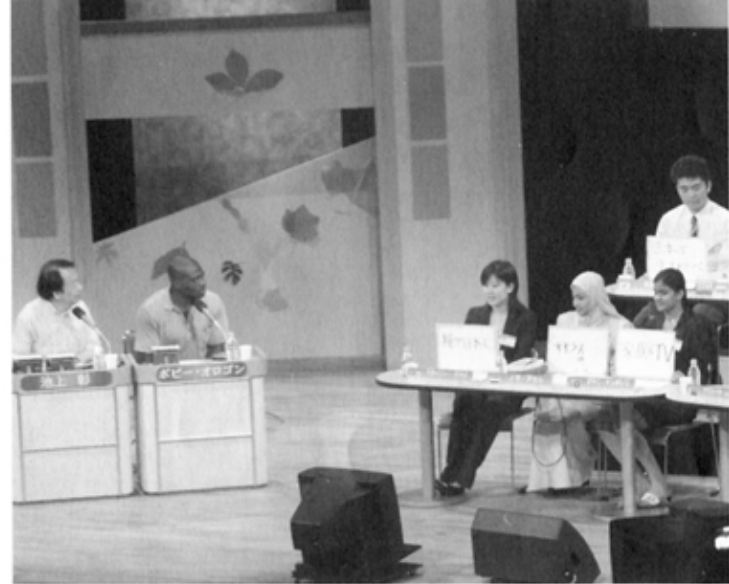


本学は、この夏愛知万博「愛・地球博」への参加事業の一環として、特別非営利活動法人ジャパン・リターン・プログラム(JRP)が主催した「2005.愛と地球と平和日本語サミット」のホスト校として協力をいたしました。

「日本語サミット」とは、日本に関心をもち、日本語を学ぶ各国の青少年の中から、国の代表バネリストが選抜され、その代表が集うものです。各国代表バネリスト(15歳、25歳)は、厳しい書類・面接審査の結果選ばれた優秀な若者で、今年度は、万博会場を舞台とし「愛と地球と平和」自然の叡智」をテーマに、それぞれの考えや意見を述べ合い

ました。また、このプログラムは「日本語で手をつなごう、世界の友達と、きょうだいに」を合言葉に、世界中に日本の良き理解者を育成することを目的とするともに日本語のブラッシュアップ、日本文化等をより広く理解していたくための企画でもあります。本学は、付属愛知高等学校と協力し代表バネリスト(世界17ヶ国17人)の愛知滞在期間中(平成17年7月17日～8月4日)のお世話をしました。

「お別れ会」で、愛知県の神田知事が、「この日本語サミットは大成功でした」とご挨拶されたことにすべてが表されているように思われます。今回のプログラムにおいて一番の難関は、代表バネリストの愛知滞在中のホームステイ先をどうするかということでした。ホームステイを行うことにより、日本の家族・風習・文化等をより深く知ることや、同世代の若者との交流ができることを望まれていたからでした。そこで、通学圏内の本学学生のご家庭にホストファミリーのお願いをしてまいりました。その結果、全ての代表バネリストがホームステイできたことは、皆様のご協力のお陰であります。愛知滞在中の長期に渡って、本学学生並びに教職員のご家庭で快くお世話をしていたいただきましたことを心から感謝申し上げます。代表バネリスト達の一生のよき思い出になるものと確信しております。本当にありがとうございました。最後に、このプログラムが怪我・事故もなく無事終了できましたことを報告するとともに、関係されました各位に心から厚く御礼申し上げます。



8月2日 日本語サミット パネルディスカッションの様子

学位

野呂忠司氏に
本学から博士(文学)の学位授与

愛知学院大学教育学部教授
野呂忠司氏に、平成17年9月
15日付で、博士(文学)の学
位が授与された。同氏は昭和
19年生まれ。昭和42年に南山
大学外国語学部英米科卒業後、
兵庫教育大学大学院学校教育
研究科修士課程、愛知学院大
学大学院文学研究科博士課程
を単位取得満期退学。

学位論文は「THE ROLE
OF LOWER-LEVEL PROCESSING
SKILLS IN EFL READING COM-

PREHENSION: EVIDENCE FROM
JAPANESE UNIVERSITY STUDENTS」論文は主研究と補足
研究から成る。主研究の目的
は、日本における第二言語の
読解研究が、心理言語学的見
解やスキーマ理論により、読
者の背景知識や読解や意味
に関する知識などが上位レベ
ルの役割の研究に偏り、下位
レベルの音韻処理や正書法処
理の「役割」に関する研究が殆
ど無いという実状に鑑み、そ
れら下位レベルの処理技能が
読解に独特な貢献をしている
ことを明らかにし、第二言語
読解の総合的なモデル化に有
意義となる知見を得ることに
ある。

補足研究の目的は、読解力
と語彙知識の広さと深
さの関係を明らかにす
ることにある。

データ分析は相関係
数分析と重回帰分析を用い、
主研究では5つの独立変数
(音韻処理技能、正書法処理
技能、読解力、意味処理技
能、読解力)と2つの従属変
数(読解力・読解の速さ)の
関係を、補足研究では読解力
と語彙知識の関係を仮説検証
しており、前者では単語認知
という下位処理が、後者では
語彙知識の深さと広さが独特
の貢献をしていることを明ら
かにした。

今後の研究課題として、語
彙知識の深さと他の読解構成
要素の関係を調査する事など
が挙げられている。

同氏の更なる研究により、
新たな知見が得られることを
期待する。

学位

山野明男氏に
岡山大学から博士(文学)の学位授与

本学教養部教授山野明男氏
に、平成17年3月25日付けで
岡山大学大学院文化科学研究
科の博士課程を修了し、博士
(文学)の学位が授与された。
同氏は昭和22年生まれ。昭和
49年駒澤大学大学院人文科学
研究科博士課程を単位取得満
期退学し、平成5年愛知学院
短期大学助教授を経て現職に
ある。

学位論文は、「わが国におけ
る国営干拓地の地理学的研究」
と題し、第二次世界大戦後に
造成された国営干拓地を対象

として、約40年間にわたる土
地利用や入植農家の営農の展
開課程を通して、干拓地にお
ける人間の適応・対応の仕方
を、地理学的に初めて解明し
た点で価値ある論文といえる。
本論文の評価点として、次
のような特筆すべき研究方法
があげられる。その第1に、
事例研究の対象とした5つの
干拓地において、入植した全
農家の営農と干拓地全体の土
地利用の変化を、干拓地の計
画段階から現在に至るまでの
時期を連続してたどりなお、
現在の干拓地の形成要因を地
理学的に明らかにしたことと
ある。本論文は、地理学研究
の原点ともいえる長年の精緻
な地域調査に基づいている。
第2に、これまでの干拓地
研究は特定の事例と時期に限っ

た研究が多く、すべての
干拓地を視野に入れた
上で抽出した主要な干
拓地を、長期的なスパン
で研究したものはない点で、
本研究の意義が認められる。
また、戦中から戦後にかけて
の深刻な食糧難対策に果たし
た干拓地の役割や現代におけ
る貴重な緑地空間である干拓
地の将来展望を考へる上でも、
干拓地の土地利用や営農の展
開要因を明らかにしたことは
意義あると考えられる。

第3に、本論文の結論とし
て、干拓地における人間の適
応・対応の形態は、そこに作
用する外的要因と内的要因の
組み合わせの違いによること
を指摘している。このような
要因分析は、干拓地ごとの地
域性の発見であり、本論文の
地理学的重要な命題のひとつ
である地域性の追求を、干拓
地を例にして示した点で評価
できる。

学位

徐少丹氏に
本学から博士(経営学)の学位授与

本学経営学研究科研究員徐
少丹氏に、平成17年9月15日
付で、博士(経営学)の学位
が授与された。同氏は昭和37
年生まれ。昭和59年に中国東
北大学自動制御学部工業自動
化学科卒業後、名古屋商科大
学大学院経営情報学研究科修
士課程、愛知学院大学経営学
研究科博士課程を単位取得満
期退学。平成12年より本学研
究員。

学位論文は「日本企業の中
国におけるコーポレート・コ
ミュニケーションに関する研

究—企業の広告・広報戦略を
中心に—。企業の広告と広
報をコーポレート・コミュニ
ケーションという新しい視点
から体系的に見直し、その上
で中国における日本企業のコ
ーポレート・コミュニケーション
適用条件を実証的に解明す
る。まず、従来型の広告と広
報から、新たなコーポレート・
コミュニケーションを基礎と
した両者統合型へ転換する必
要性について論じ、これまで
多くの日本企業が行ってきた
広告・広報の限界や問題を指
摘。解決するためには全社的
なレベルで広告・広報を統合
しなければならぬことを主
張している。

また、日本企業が中国で経
営する場合、従来型の広告
と広報を採択すべきか、それ
とも新しいコーポレー
ト・コミュニケーション
型を基礎にした「統合
型」を選択すべきかと
いう政策選択についても論じ、
中国が日本企業の「生産基地」
から「消費市場」へシフトし
ていることや、日本製品の競
争優位性の低下、中国消費者
の権利意識の変化、欧米や韓
国などの企業との競争激化、
中国におけるメディアの発達
などの変化に対応していかな
ばならないという問題認識か
ら、結論として、統合型への
転換の必要性を説く。

中国市場で活動を展開する
日本企業は、長期的企業発展
計画に基づく経営戦略が必要
であり、コーポレート・コミュ
ニケーションへの戦略転換が
不可欠なのだが、その実施例
や研究が少ないことから、同
氏の研究は実務家と研究者の
両者に対し、意義あるもので
あるといえよう。

平成17年度
古川学術研究振興基金研究費3名に交付

本年度の古川学術研究振興
基金による学術研究費交付伝
達式が7月12日、日進キャン
パス学長室にて行われた。
古川基金は、平成3年に古
川善次郎氏(元大学後援会長)
の寄付金を基に創設され、独
創的で、学術的に幅広く社会
に貢献することが期待される

▽文学部
シャーン・パトリック・テンホ
フ 外国人講師
「Sociocultural Competence
in Second Language Learn-
ing」(第二言語取得における
社会文化能力について)
▽経営学部
内藤 勲 教授
「プラットフォーム型産業
へのアーキテクチャ概念の適
用」
▽商学部
吉田 聡 助教授
「Javaプログラムの動作検
証について」

平成17年度
日本口腔衛生学会
学術賞(LION AWARD)
歯学部 加藤一夫 助教授受賞

第54回日本口腔衛生学会総
会(会長・向井美恵 昭和
大学歯学部口腔衛生学教室教授、
会期：平成17年10月6日〜8
日)で、歯学部・口腔衛生学
講座、加藤一夫助教授が日本
口腔衛生学会学術賞(LION A
WARD)を受賞した。

対象となった論文は「A
Method for Mapping the
Distribution Pattern of
Carogenic Streptococci
within Dental Plaque in
vivo. Caries Research, Vol.
38(5), 418-453, 2004」

本論文は、歯垢の層別採取
法にPCRによる連鎖連鎖細菌
(S. mutans, S. sobrinus)の同
定法を組み合わせて開発した
歯垢内の連鎖連鎖細菌の解析
法(層別マッピング)とその
応用に関する研究である。

本研究によつて、バイオフ
ィルムである歯垢の細菌の生態
系を探索することが出来るな
ど、これまでになく結果を明
示している。この研究方法に
よる歯垢の研究は将来にわた
つて口腔衛生分野の、特にう
蝕に関する研究には有用性が
高いと判断され、より一層の
進展が期待されている。

平成17年度秋季公開講座スタート

総合テーマ『美』	
10月8日(土)	良い歯ならび・良い笑顔 —歯ならび治療で心も身体も健康に— 後藤 滋巳(歯学部教授)
10月22日(土)	美と聖なるもの 立川 武蔵(文学部教授)
10月29日(土)	美人について考える—ジェンダー論の立場から— 岩田 和男(情報社会政策学部教授)
11月5日(土)	インドの美術—エロスと美— 石黒 淳(文学部教授)
11月12日(土)	日本の美意識—保田與重郎『日本の橋』と熱田裁断橋— 山口 均(教養部教授)
11月19日(土)	企業行動の美学 内藤 勲(経営学部教授)

また、津島市教育委員会が
主催する「津島市大学公開講
座」においても、同一テーマ、
同一講師による講座が開講さ
れる。



10月8日開講式の様子

第53回 大学祭

テーマ「華」

第53回となる愛学祭が11月3日から5日の間、日進キャンパスで開催された。広大なキャンパスは華やかに装飾され、本部棟から6号館に下る坂(通称「学院坂」)の両側には、例年の名物となっていた多くの出店が立ち並んだ。今年のテーマは「華」。この文化系サークルの研究発表



出店が並び賑わう学院坂



メインステージでのジャズ演奏

のテーマには、半世紀にわたって開催されてきた愛学祭の良いところを活かし、愛学祭という「華」を育てよう。また、すべての参加者に笑顔の「華」が満開に咲きましますようにという願いが込められている。主な学術企画として、ゼミ・文化系サークルの研究発表

オープンキャンパス 2005 開催

例年開催しているオープンキャンパスが、今年は7月30日・31日、及び10月9日の計3日間開催され、恵まれた天候のもと、多くの受験生や保護者が来場した。7月の参加者は日進、楠元の両キャンパスで約4,300名、10月は約1,600名が来場し、昨年よりも約1,100名の増加となった。特に、短期大学部においては、歯科衛生学科の志望者が多く、熱心に入試説明やミニ授業に参加して



教員による個別相談



薬学部棟での調剤実習

いた。オープンキャンパスの主なプログラムは、模擬授業、小論文対策講座、入試説明会、キャンパスツアー、スタンプラリー、教員による個別相談など。また、10月のオープンキャンパスでは、新設したばかりの薬学部棟で調剤実習が行われ、多数の高校生が実際に薬の調剤を体験した。参加した高校生は、実際に大学の空気に触れることで、キャンパスライフを思い描き、期待に胸を膨らませた。

勝ち取れ07就職戦線!

07年の大学3年生の就職戦線が、いよいよスタートします。10月中旬には就職情報会社・大手企業等の就職サイトがオープンします。

「上手くやれたこと」「頑張ったこと」「充実感があつたこと」「失敗したこと」などをピックアップします。その作業を通して、自分の「適性」を探し出していきます。

②現在と未来について考える「現在どのような大学生活を送っているのか」「将来どのような生き方、どんな職業を選択したいのか」について、自分なりに整理し、列記してみよう。将来については、就職後の自分、例えば30歳、40歳、50歳の生活設計を立ててみるのも良いでしょう。

③他人からの評価を受ける「自分が思っている自分」と「他人が感じている自分」にはギャップがあるはず。自分では気づかない面を、他人はしっかりと見ていることも良きあります。一度身近な人に、

自己分析は、そんな就職活動に皆さんが踏み出す前に、準備段階として真剣に取り組むべきことなのです。まず自己を知るなければ、己の適性を見つめるのは難しいからです。自己分析は、自分の性格や能力、可能性、特技、価値観、人生観、学業成績、健康状態、職業的興味など自分を取り巻くすべての条件を正しく把握することから始めなければなりません。

「自己分析の方法」
それでは、その自己分析をするにはどうしたらいいか。一つの方法としては、過去、現在、未来にわたる自分史をイメージするのもよいでしょう。①過去の自分を振り返る子供の頃から現在までの自分に関する主な出来事を振り返り、それらのうち「楽しかったこと」「うれしかったこと」

就職活動フローチャート

就職活動の流れ

START

自己分析

自分自身を知る
(将来設計・性格など)

希望進路決定

民間企業コース

公務員・進学(留学)コース

- JNET求人NAVIへの登録
- 就職情報サイトへの登録
- 自己分析
- 先輩の体験談などを聞く
- 業界・業種・職種・職種の調査
- 新聞を読み始める

～10月

- 業界・業種・職種の理解
- 希望業界(種)・職種の選択
- 資料請求(Webやハガキでエントリー)
- リクルートスーツの購入
- 就職情報誌の到着

～12月

- 自己PRを固める
- 企業研究(業界・業種・職種を含む)
- 業界(種)・職種の志望動機を固める
- 会社説明会に出席
- セミナーに出席
- エントリーシート提出
- エントリー開始

～3月

- 採用試験開始(筆記・面接試験)

3月～

- 内定が出始める

4月～

不採用

決定

希望先の調査・研究
試験の分析

勉強スケジュールの
作成・プラン作成

必要書類(願書)を
揃える

提出

試験

合格

不合格

平成17年度キャリアセンター3年生対象就職行事日程表

11/30(水)～12/14(水)	業界研究会 各業界の代表企業を大学に招き、業界の情報などを説明してもらいます。12:25～13:05、121教室
12/20(火)	就職実践セミナー 電話や面接のマナーを実演します。16:30～18:00、百周年記念講堂
1/31(火)	第4回就職ガイダンス 今後の就職活動の進め方について説明します。16:30～18:00、百周年記念講堂
2/1(火)～	模擬面接・履歴書・エントリーシート添削受付 就職活動が本格化する中で、キャリアカウンセラーが実践的な個別指導をします。
2/2(木)～15(木)	企業セミナー(スクール形式) 上場企業を中心に約40社を大学に招き、採用情報・会社概要を説明してもらいます。9:30～17:00、学院会館ホール
2/17(金)・20(月)・21(火)・22(水)	企業面談会(ブース形式) 企業約240社を大学に招き、面談を実施します。13:00～16:00、図書館情報センター・第3食堂

ともに、これからの生き方を展望することが出来ます。自己分析を充分行い、コミュニケーション能力を身に付けて、納得のいく就職先を勝ち取って下さい。

キャリアセンター就職課
次長 江崎 修



平成17年度 夏期海外語学研修

平成17年度海外語学研修は、さまざまな国際情勢を考慮し、今年はカナダ・ビクトリア大学(8月3日～9月2日)1コースで実施した。

現地では、英会話の授業以外に、カナダの歴史・社会・経済・法律などの教養講座を受講したほか、課外活動では美術館など、さまざまな観光名所を訪ねたり、ホエールウォッチングを体験した。

参加した学生は約1カ月間の語学研修を通じ、ナマの英語に触れるだけでなく、カナダ文化や生活習慣を体験することができた。

予定どおり研修を終了し、全員無事帰国した。

参加学生 20名
引率者 大森 明(商学部助教授) 高嶋基則(キャリアアセンター職員)

カナダ語学研修を終えて

堀尾 佳代(団長)
(法律学科3年)

私は、この語学研修に申し込んだとき、友達もいない、本場に外国という異国の地で暮らしていけるのだろうか、本当に外国の人とコミュニケーションをとることができるとかという不安でいっぱいでした。その一方で、カナダの文化、習慣、そこに住む人々はどうな生活を送っているのだろうかという興味もありました。様々な不安と期待を抱えながら出発の日を迎えました。



カナダに着いて、想像以上の自然の大きさ、緑の多さ、街並みの綺麗さに驚きと感動を憶えました。まさに外国の風景でした。大学の授業は、日本の英語の授業とは違い、

と助け合うことの意味、チームワークの大切さを感じました。最初は、外国人と話すことに慣れていなかったため、話すことに対して、恐怖感や戸惑いがありました。しかし、このホームステイを通じて会話することの重要性を感じました。

たった一ヶ月という短い期間に私は友達という宝物、今まで経験したことのない新しいものを手に入れることができました。そして同時に、人のやさしさ、あたたかさ、大切さを学び感じることができました。この語学研修で経験した多くのことを、就職活動、またこれからの人生につなげることができたらとてもすばらしいことだと思います。

カナダレポート

杉本

崇(副団長)
(法律学科2年)

今回、海外語学研修カナダコースに参加し、自己の英語力が多少なりとも向上したことを実感した。そして、異国の文化を経験し、これまで以上に日本の善し悪しを明確に感じるようになった。さらに、異なった学年、学部、の人々と出会い、仲間になったことがすばらしい経験になった。

私にとって、今回の語学研修がはじめての海外ということになり、不安を感じていた。実際、英語は得意ではなく、初日から数日まで英語を話すという環境に慣れるのに苦労した。しかし、一度慣れたら英語が自然と出てくるようになり、自分の英語がカナダの人に通じたときは、快感さえ感じるようになった。私がそう感じるようになったのは、授業や午後のactivityで私



たちを担当してくれた、Christine, Mary, Heatherやその他の人々のおかげである。午前の授業はこれまで日本での文化を経験し、これまで以上に日本の善し悪しを明確に感じるようになった。さらに、異なった学年、学部、の人々と出会い、仲間になったことがすばらしい経験になった。

私にとって、今回の語学研修がはじめての海外ということになり、不安を感じていた。実際、英語は得意ではなく、初日から数日まで英語を話すという環境に慣れるのに苦労した。しかし、一度慣れたら英語が自然と出てくるようになり、自分の英語がカナダの人に通じたときは、快感さえ感じるようになった。私がそう感じるようになったのは、授業や午後のactivityで私

ゴルフ部 高山準平君 日本学生選手権初優勝

本学ゴルフ部主将高山準平君(法学部・法律学科4年)が第52回朝日杯争奪日本学生選手権において見事優勝した。10月25、26日に、埼玉県児玉町のこだまゴルフクラブ(7085ヤード11ホール)で、36ホールストロークプレーを行い、通算6アンダー、138ストローク。

初日5位タイから追い上げた池田勇太君(東北福祉大・日本学生ゴルフ優勝者)を一打差で振り切って初優勝をした。



高山準平君の今年度主な戦績、中日クラウンズベストアマ(2年連続)、日米大学ゴルフ選手権出場(米加州スタンフォード大ゴルフコース 日米各8名)、日本学生ゴルフ選手権第2位、日本オープンゴルフ選手権4位タイ等。

硬式野球部 明治神宮大会出場決定

愛知・東海・北陸各地区の大学野球リーグ優勝校による、明治神宮大会への出場をかけた最終決定戦が、10月28日に瑞穂球場で行われ、本学野球部が三重中央大学を破り、3年ぶり11回目の出場を決めた。試合は、初回に先制されるも、4回で追いつき、5回で逆転。しかし、6回で同点に追いつかれ激しいせめぎ合いが続いた。多くの好機を作りながらもそれを生かせず、苦しい局面が続いた。同点で迎えた7回の攻撃、秋季リーグ戦でも見せた「粘り強さ」で、二死二塁から代打・岡田宣行君(法学部・2年)が左前適時打を放ち決勝点となった。



男子バレーボール部 全日本インカレ出場

本学男子バレーボール部は、秋季リーグ戦において全勝優勝し、全日本インカレへの切符を手にした。

昨年の全日本インカレにおいて、本学がベスト8の成績を収めたことで、東海学生連盟に今大会のシード権をもらった。この秋季リーグ戦を制したことで、そのシード権を持つ全日本インカレに出場する。

愛院大

10000200003	3
0001201004	4

道元禅師の「只管打坐」

「只管打坐」

道元禅師の教えと実践を一言で言いあらわすと「只管打坐」です。「只管」は「只管」とも書き「ただ」「ひたすらに」という意味です。「打坐」は、一心に坐禅に打ちこむことです。

これは道元禅師の師匠である如浄禅師の教え「参禅は身心脱落なり(中略)只管に打坐するのみ」(修行と悟りは別ものではない)にもとづくもので坐禅が、そのまま「身心脱落」(大悟)というのです。

「エッ」と驚く人もいるでしょうね。多くの方は一般に仏教は、「さとり」を求めるためとか、人々を救うためと思いきっているのではないのでしょうか。

教養部 吉田道典

はいいのでしょうか。それはそれでよいのですが、究極的には「無所得」「無所悟」といって、名利や「さとり」さえ求めず坐禅に徹することです。

「なすべきことをなす」といつてもよいでしょう。そこに広がる無量無限の「世界」を体験して下さい。

(平成16年10月1日
～平成17年9月30日)

今回は団体26クラブ、681人（うち歯学部9クラブ、200人）と個人98人、31クラブ（うち歯学部32人、7クラブ）が表彰を受けた。

クラブ名	
------	--

▷ 一般表彰 (個人の部)

学 科	氏 名	ク ラ ブ 名	大 会 名	成 績
法律	北川 真行	ソフトボール部	愛知県大学ソフトボール選手権大会	敗 闘 選 手 賞
歴史	長谷川 渉	釣りクラブ	全日本釣魚連盟中部支部春季ルアー大会	大物賞：総重量 1 位
商	牧原 文樹	"	"	総重量 5 位
情報	内田 雄基	"	全日本釣魚連盟投げ釣り大会	3 位
商	平石 雄也	空 手 道 部	愛 知 県 空 手 道 選 手 権 大 会	優勝：一般男子 組手の部
日文	鈴木 啓亮	"	"	優勝：一般男子 形の部
"	"	"	東 海 学 生 空 手 道 選 手 権 大 会	優 勝：男 子 形
"	"	"	春季知東地区空手道選手権大会	優 勝：男 子 形
心理	竹下 笑加	"	愛知県東海地区空手道選手権大会	優勝：一般女子 組手の部
"	"	"	春季知東地区空手道選手権大会	優勝：女子 個人組手の部
"	"	"	秋季知東地区空手道選手権大会	優勝：女子 組手の部
産情	森 純子	"	愛知県東海地区空手道選手権大会	優勝：一般女子 形の部
情報	小楠 貴之	居 合 道 部	秋季知東地区空手道選手権大会	優 勝：男 子 形
法律	近藤 広隆	"	全日本剣道学生居合道選手権大会	優勝：二段の部
"	"	"	東 海 学 生 居 合 道 選 手 権 大 会	優勝：二段以上の部
歴史	星野 康徳	"	"	優勝：初段の部
"	"	"	大 阪 居 合 道 大 会	優秀演技賞：初段の部
日本	中島絵里子	書 道 部	大 中 日 展 書 道 展 覧 会	奨 励 賞
"	"	"	大 中 読 書 展 覧 会	入 賞
"	志賀 香代	"	大 中 読 書 展 覧 会	入 賞
"	"	"	大 中 読 書 展 覧 会	入 賞
"	"	"	大 中 読 書 展 覧 会	入 賞
情報	長岡 裕人	"	日 本 高 校 ・ 大 学 生 書 道 展 覧 会	優 秀：第 1 種 選 手
"	"	"	日 本 高 校 ・ 大 学 生 書 道 展 覧 会	優 秀：第 1 種 選 手
日本	小玉さやか	"	日 本 高 校 ・ 大 学 生 書 道 展 覧 会	入 選：U23・漢字 II 類
"	山本 晴久	"	日 本 高 校 ・ 大 学 生 書 道 展 覧 会	優 秀：第 1 種 選 手
"	永井 宏幸	"	日 本 高 校 ・ 大 学 生 書 道 展 覧 会	優 秀：第 1 種 選 手
経営	山本 浩晴	起業研究会	S I F E 全 国 大 学 生 書 道 展 覧 会	世界大会(トロント)ISBC部門 入賞

国	住	夕
---	---	---

▷ 歯学部 (団体の部)

▷ 歯 学 部 (個人の部)

学年	氏 名	ク ラ ブ 名	大 会 名	成 績
5	安藤 清文	ス キ ー 部	十 一 歯 科 大 学 対 抗 戦	男子個人総合 優勝
"	"	"	"	男子大回転 優勝
"	"	"	"	男子回転 準優勝
"	"	"	第37回全日本歯科学生総合体育大会	男子スーパー大回転 優勝
"	"	"	"	男子回転 準優勝
"	三原 理智	"	"	男子個人総合 優勝
"	"	"	"	男子大回転 優勝
"	"	"	"	男子スーパー大回転 準優勝
4	久野真由実	"	十 一 歯 科 大 学 対 抗 戦	女子個人総合 3位
"	"	"	第37回全日本歯科学生総合体育大会	女子回転 3位
"	田中美奈子	"	十 一 歯 科 大 学 対 抗 戦	女子個人総合 優勝
"	"	"	"	女子大回転 優勝
"	"	"	"	女子回転 準優勝
"	"	"	第37回全日本歯科学生総合体育大会	女子大回転 優勝
5	小足 茉莉	"	十 一 歯 科 大 学 対 抗 戦	女子大回転 3位
4	河田 翔平	ヨ ッ ト 部	第37回全日本歯科学生総合体育大会	個人ベア 優勝
3	福田 泰久	"	"	個人ベア 優勝
1	安藤 正彦	少林寺拳法	"	新入会の部 優勝
"	杉村 拓磨	"	"	新入会の部 優勝
"	滝 大策	"	"	新入会の部 準優勝
"	錦戸 崇	"	"	新入会の部 準優勝
"	渋谷健一郎	"	"	新入会の部 3位
"	早川 淳	"	"	新入会の部 3位
"	田中 佑典	"	"	級拳士の部 3位
"	"	"	"	単独演武 段外の部 優勝
2	荒尾隆太郎	"	"	級拳士の部 優勝
"	鬼頭 広章	"	"	級拳士の部 優勝
"	西村 誠	"	"	級拳士の部 3位
"	外堀 恵	"	"	初段の部 優勝
"	"	"	"	単独演武 段外の部 準優勝
3	横山 貴至	"	"	初段の部 優勝
"	"	"	"	単独演武 有段者の部 優勝
5	杉本 渉	"	"	二段以上の部 準優勝
"	"	"	"	単独演武 有段者の部 3位
"	永井 大督	"	"	二段以上の部 準優勝
4	岡本樹一郎	"	"	二段以上の部 3位
"	山本 英里	"	"	二段以上の部 3位
"	佐野 恭子	日本拳法部	"	女子個人戦 優勝
3	寺本 恵子	"	"	女子個人戦 準優勝
1	加古 祐輔	"	"	男子新人戦個人 3位
3	土井健太郎	ゴルフ部	"	男子個人 3位
6	村瀬 雄一	水 泳 部	"	200m個人メドレー 優勝
"	"	"	"	100m 背 泳 ぎ 優勝
"	"	"	"	(新人戦)50mバタフライ 優勝
"	"	"	"	(新人戦)50m背泳ぎ 優勝
4	久田彩友美	"	"	200m個人メドレー 優勝
"	"	"	"	50mバタフライ 優勝
"	"	"	"	100m 自由形 2位
"	"	"	"	(新人戦)50mバタフライ 優勝
"	"	"	"	(新人戦)50m自由形 2位
6	小澤 謙盛	ボウリング部	"	個人総合 2位
"	"	"	"	シングルス戦 2位
"	"	"	"	ダブルス戦 1位
3	渡辺 裕文	"	"	ダブルス戦 1位